

(巻頭言)

まもなく21世紀が幕開く

副会長・中井 武美

平成11年7月1日、私の頭上に『恐怖の大王』が降り立った。朝、目覚めると、右の聴力が下がって、左右の感音バランスが崩れている。突発性難聴5度目の再発だ。

受診し、ステロイドホルモン剤の大量投与と安静だけがなしうる治療法だと言われ、自宅で静養することとなった。原因はストレスと、ウイルスによる聴神経感染が疑われるが原因は今のところ究明できていない難病だとのことだった。静養中に「インターネットを使ってガンと闘おう」を読んだ。ジャーナリストの著者の妻が白血病に罹りその闘病記である。著者お手の物のパソコンを駆使し、情報をかき集め白血病の治療法を探して行く様子は読むものをぐいぐい引き込んで行く。白血病のイロハも解らなかった著者が、専門医と対等に渡り合えるまで困難を克服し成長してゆく。ガン克服のツールとしてのパソコンインターネットの利用、その威力に瞠目したい。

闘病中の患者さんの中にも、同じようにして情報を集め闘病しておられる方もおられる。これからの時代は医療情報も一部専門領域の人だけのものではなく、広く開かれた情報として取り扱われなければならないしそのような大きな波として動いている。お仕着せの治療メニューではなく、さまざまな治療の選択肢を患者さんととも選んで行く時代に入っているのだ。横須賀三浦放射線技師会のYMBIT（パソコンの普及活動）は1990年3月から先駆的な取り組みを始め、まもなく会のホームページを開こうと準備している。YMBITが創設されたとき今日の情報化時代が予測されたであろうか？ 時代の動きに敏感で、それをすばやく取り込んで行く会員の貪欲なエネルギーが、世の中を半歩先行く横須賀三浦放射線技師会の特徴と見るべきではないだろうか。

まもなく21世紀が幕開く。

(参考)

※インターネット検索項目[k e nの超闘病記]

※「インターネットを使ってガンと闘おう」 埴岡健一著 中央公論社

前号でご報告致しました、栗田先生及び佐々木先生の訃報に対し、会員より以下の追悼文が寄せられましたので、ご報告致します。

追悼文

亡き栗田達夫先生を思う

神奈川歯科大学
放射線学教室・関野 政則

平成11年8月16・17日通夜・葬儀にて、72歳でこの世を去った栗田達夫先生に、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

栗田先生と私が出会ったのは、今から30年前の昭和45年に私が神奈川歯科大学に就職した翌年の昭和46年4月でした。逗子の松汀園に元国立横須賀病院・技師長の小星先生に連れられて行った横須賀・三浦地区放射線技師会総会の時と思います。栗田先生と初めてお会いした印象は言葉の丁寧な品格のある、まるで銀行の頭取のような印象を受けました。

その後私も横須賀・三浦地区技師会の役員として米倉理事長の元で栗田先生共々頑張った記憶があります。特に宮原会長・関野会長の時代には良き参謀として昭和52年には神奈川県で初めて横須賀・三浦放射線技師会ニュースを栗田先生の直筆で発行し多くの会員に情報を伝達する事が出来ました。後に神奈川県放射線技師会で高く評価されたのも栗田先生のお陰だと思います。この事は今後、横須賀・三浦放射線技師会の歴史に深く刻み込まれるでしょう。また昭和59年には横須賀救急医療センターに協力する上で多難な問題が有りこの事を克服し地域医療に参加出来たのも栗田先生の力が大きかったと思います。特に救急センターに協力する会員はボランティア精神を持つようにと強調していた事を今も忘れません。

さらには、昭和63年10月には横須賀・三浦放射線技師会の集大成となった40周年記念事業を故人・武田亀太郎先生指導の元、横山横須賀市長をお迎えし放射線技師の地域医療への重要性をアピール出来たのも当時会長をしていた栗田先生のプラス思考の賜物だと思います。

昭和59年には神奈川県放射線技師会・会長 山本洋一先生の時代に武田亀太郎先生のご推薦で神奈川県放射線技師会の理事として参画し多くの功績を残しました。特に横浜市救急医療センターへの協力体制の確立・神奈川県医療専門職連合会の確立には多大な功績を残しました。後に大病にも関わらず神奈川県技師会・会長に就任され、その功績を高く評価され厚生大臣表彰を始め数え切れない程の角界・各層から多くの表彰を受けております。また、永年の放射線技師として国民の医療活動に貢献したことを讃え、平

成8年に勲5等瑞宝章も受賞されました。ここに改めて、栗田先生の偉大さを感じます。私的には宮原会長時代に役員会がおわるとお酒が強い宮原先生(故人)・お酒好きな栗田先生・お酒の弱い関野と連れだって横須賀の街を良く歩きました。宮原先生はハシゴ酒が好きで、栗田先生は女性に優しく、この時はほとんど午前様でした。私が、この時考えた事は、両先生を惑わしてどの様に逃亡するかでした。何せお酒は入っているし私は年下ですのでその場の雰囲気壊さず逃亡するにはどうしたら良いか必死でした。今でもその癖が直らず懇親会があると必ず途中で逃亡する事は有名です。まるで映画の逃亡者リチャード。キンブルの様な才能が身に付きました。今頃天国で宮原先生と栗田先生でお酒でも交じあわしているでしょう。 合掌

栗田先生を偲んで

湘南病院・三堀 光雄

私が湘南病院に就職を希望し、人事課との面接が終わり庶務課長に案内されてレントゲン室に入ったとき、ファンコイルに腰を掛けながら横山氏と話をしていた栗田先生はかなりの年輩の方に見受けられました。なぜなら非常に頭髪が薄く高齢の方のような印象をうけたのです。しかし、実際は若く最初の印象は全くうち消される程元気な方で、しかも何事にも熱心で、一度決めたら脇見もふれず一直線に進むバイタリティー溢れる方でした。

胸部写真を撮影するときなど、患者から少し離れ、体が曲がっていないか、両肩のバランスはどうか等、的確なポジショニングをしてから撮影する程の気の入れ様でした。腹部の撮影にしても患者の頭部側から、足下の方からと常にその場その時が真剣な方でした。それ故、慈恵医大からの派遣医が「大学病院よりずっと良い写真だ、どこの写真と見比べても湘南病院の写真は最高だ」と言っていたのをよく耳にしたことがあります。また、そのころ各フィルムメーカーで「X-Ray写真コンテスト」があり、特選や入賞の盾が部屋に置いてありそれを見て自分も将来栗田先生の撮影に近づけるようにならねばと痛感させられました。病院の親睦会である、みどり会幹事長も長年にわたり勤められ、納涼会や忘年会、そして各部の援助金の配分等、みどり会の発展にも大きく尽力を尽くされました。

そして、理事長のモットウである「職員の和」に徹し、みどり会を通して「職員が一丸となって、患者一人一人に優しく丁寧に接することが真の医療人である」と言う教えを守っておられました。

趣味のテニスにしても、仕事同様の熱の入れ様で昼食後すぐに運動着に着替え誰もいなくても壁打ちに没頭し、昼

休みが終わる頃汗びっしょりになって戻ってくるのです。

旅行も大好きで中央検査部の旅行、病院の旅行、事務部の旅行など機会があれば必ず参加し、皆と親睦を計っておられました。

しかし、こんなに元気でバイタリティーのある方が4~5年前より徐々に体調を崩し、今から3年前の1996年秋(平成8年)県の放射線技師会会長をはじめ横須賀三浦放射線技師会会長を兼任し、神奈川県医療専門職連合会、また、他の関係諸団体にも積極的に参画し、種々事業を遂行し多大なる功績を挙げられ、『勲五等瑞宝章』を授賞した頃も体調があまりおもわしくなかったようです。

先生の思い出は沢山ありますが、いざペンを取るとなかなか上手く表現する事ができません。

最後に、どんな席にいても「左手の人差し指でめがねを上げながらホッホッホッホ」とリズムに乗せながら笑うあの姿、今にも隣で笑い出しそうな気がいたします。

1999年8月13日(金)21時25分遂に力尽き永眠されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

佐々木道夫先生の死を悼んで

横須賀市立市民病院・中井 武美

佐々木道夫先生は、1999年5月6日喉頭ガンのため享年49歳で亡くなりました。あまりにも若い死で、真に残念な死でありました。

亡くなる数日前千葉県副会長とお見舞いに行きました。ベッドの傍には奥さんが付き添っておられ、佐々木先生を囲むようにして少しお話をしました。数日前まではコミュニケーションができたが、当日は意識がなくなったこと。

釣り専科・I

絶好釣

千代田イカ(株) 判澤 勝明

忙しにかまけ？ 釣りに行く機会が減り、いささか欲求不満さみですが、やはり時間を作り海に出たいと思う今日この頃です。

さて今回原稿依頼をいただきましたので、私の釣行を少々書かせて頂く事と致しました。釣りの楽しみ方は人それぞれとは思いますが、釣りに行く前から始まっており、この前はこうだったから今回はこの竿で、あの仕掛けでと考

うわごとで仕事のことをしきりに心配されていたこと。さまざまな、今後起こりうる事態に対して準備をしておられたことなど、奥様と話し、千葉副会長、私と最後に手を握り締め奇跡を祈りつつお別れをし、退室しました。

先生は、東京都立診療放射線技師学校の私の後輩にあたり、そのことを知ったのは横須賀三浦放射線技師会の会合のときでした。当校は学生数が少なく、卒業生と出会うことは少なかつただけに横須賀にも卒業生が勤務していることに驚き、しばし当時の学校生活の話に花が咲いたことを思い出します。先生は話が好きで誰とでもすぐ友達になり多くの友人と飲み且つ談笑されている姿をよく見かけたものでした。あの笑顔と次々と出る豊富な話題、ゼスチャーは今でもまぶたに浮かんできます。

1994年発病され初めて来院、入院。6月最初の放射線治療を開始しました。疾病の病期についても十分把握され、治療に対しては充分主治医と相談し手術・放射線治療を受けられました。退院されるとき笑顔が忘れられません。しかし、1997年6月再発され2度目の放射線治療を行いました。わたしもつらい思いをしながら治療を行いました。病状が落ち着いたところで元気に退院されCRを心から祈っておりました。その後、横須賀三浦放射線技師会創立50周年の記念式典にも元気な姿を見せて会場の皆さんと談笑している姿をみかけ良かったなあと安心しておりましたのに.....

まもなく49歳の誕生日を迎えようとしてつづつ亡くなられました。5月9日お通夜には、多くの友人、知人が参列され祭壇には先生のあの懐っこい笑顔の遺影が飾られていました。

先生のご冥福を祈ります。

えて、釣り場ではこの状況ではこんな釣り方でと試行錯誤することも一つの楽しみです。うまくいくとは限りませんが、釣果の上った時はなんとも言えぬ嬉しさです。お得意様にも私など足元にも及ばぬ、大変釣りの好きな方も多く、面白い仕掛けを見せて頂いたり、釣り場・釣り方等の情報も教えて頂き、大変参考になり有り難く思います。なるほど魚が掛かるイメージも浮かび、仕事でお伺いしているのに、いつしか商談はどこへやら、時間があつと言う間に過ぎる事もしばしば(会社には内緒ですが)。もう少し仕事の時間も作りましょう。

最近では一人で釣りに出る事が少ないのですが、釣り始めると同行者には目もくれず、ひたすら魚との真剣勝負に入り込んでしまう事も有ります。まったく釣れない時や、

釣れ過ぎで多少飽きてくると会話も多くなりますが、釣り場でも色々なアクシデントも有る為、やはりマナーを守り余裕も持たたいものです。そう言えば数年前友人と釣りに出たとき、釣り始めて30分位で、買ったばかりの竿とリールを船から海に落としてしまうという大失態（これ結構高かったのに！）、乗合船でしたが船長より「予備の竿は無い」との無情の言葉、これから沖上がりまで傍観者と思うとダブルショックで意気消沈。ところが数分後、隣にいた友人の竿が大きくしなり「今日一か、もしかして落とした竿かな」と冗談まじりに巻き上げると、なんと私の竿、周りはみんな大爆笑、お蔭様で釣りを続ける事が出来ました。ただし、後日飲み代が高かった事は言うまでも有りませんが、やはり釣り仲間は大事にしましょう。

私の釣りは、釣る面白さと共に、釣った魚を食す事も楽しみでありますが、幸いにして7歳の娘も喜んで食べてくれる事は（刺し身だけです）嬉しい限りです。

年末には平目を釣る予定ですので頑張ります。

釣り専科・II

私の釣り漫談

横須賀市保健所 大寺 聡

「釣り」と聞くと誰もが防波堤・砂浜・磯等の餌での海釣りを思い浮かべるでしょうが、私がやる釣りは、餌を使った釣りも行きますが、ルアー（疑似餌）を使ったルアーフィッシングがメインです。この釣りは、様々なルアーを使って魚との駆け引きを楽しみ、決して、無駄に魚を殺さずに、遊んでもらった後には逃がしてあげるキャッチアンドリリースを基本にしています。数あるルアーフィッシングの中でも、特に好きなのが、毎年6月～9月に黒潮によって回遊してくる「シイラ」という魚を、船に乗って釣るシイラフィッシングです。このシイラという魚は、地方では万力と呼ばれているほど力が強く、また、好奇心が強いので水中に沈むルアーだけでなく、水面を泳がせるルアーにもよく反応してくれるため、ルアーに食いつく瞬間が見ることができます。さらに、この魚は成長すると体長が130cmを超え、重さが16Kg以上にもなり、ルアーに掛けるとこの大きな体をくねらせて針をはずそうとし、何度もジャンプをして糸を引き出しこっちの体を海中に引きずり込むかのようなダイナミックな釣りを楽しませてくれます。私も、2年ほど前に130cm・14Kgのシイラを1時間20分かけて釣り上げましたが、その後の記念撮影で、疲れて腕が震えてしまい1人で魚を持ち上げることができないくらいでした。その時から、職場の夏期休暇は全てこの釣りに費やしてしまうほどはまっています。

最後に、「松方 弘樹 世界を釣る」ではありませんが

海外でのBigFish狙いで釣行を夢に見て、今日も道具をピカピカに磨いています。

釣り専科・III

釣人(ちま)は(ま)を(ま)目指す!

横須賀北部共済病院 濱田順爾

私が釣りを始めたのは今年の5月。まだ2年も経っていないというのに随分ハマってしまったものだ。私は今年の春、期せずして独り者になってしまった。今年の春から1年間の別居生活を経て、ついにこうなった。こんなところで発表する話でもないとは思っているのだが、どうやら私の根幹をなしているものは「まっ、いいか」の言葉に集約されるようなものらしいのでどうか驚かないで（変な日本語だ）。

私が釣りを始めたのは、突然一人暮らしをしなければならなくなり、なんだかしょんぼりしていた自分を見て、職場の仲間がさそってくれた。それがきっかけだった。ホントに仲間っていいです。このおかげでなんとか立ち直れたのだから。話を釣りに戻そう。初めて乗る釣り船。もちろん道具はレンタル。おぼちゃん育ちの自分は釣りなんてやったことが無い。しかし、見よう見真似でやってみたら、これがなんと爆釣状態なのだ。釣れたのはメバルやカサゴが合計20尾以上。初めてでこんなに釣っちゃっているの？大きいものだ20cm以上、まあそんなに大きいとは言えないけど、掛かるとこれがグングンと結構な引きなのだ。この辺は経験してみないと分からないものだが、この「グングン」にもものすごくワクワクさせられたのを覚えている。私の釣りの師匠であるUB氏によると、この時ワクワクするのは、その昔狩猟民族であった、ご先祖様の血が目覚めるからなのだそうだ。ノストラダムスを信じた私なんかは、すぐに納得してしまう。ちなみにこの時の釣りは餌釣りだった。さて、話は飛ぶが私の周りには常に数人の釣り好きが居て、目覚めた私はその彼らと何度も釣行を重ねた。自然と自分の師匠であるUB氏の興味の向く方向に同調していった訳なのだが、今現在我々が好んでやっているのはジギングというヤツ。誰しもが釣りというのは「じっと竿をたれて我慢」というイメージを持つと思うが、全然そうじゃない釣りもあり、このジギングというのがその筆頭だ。鉛の塊で出来たメタルジグという疑似餌を水中に落とし、底をとったら水面までただひたすら「シャクって巻く」を繰り返す「動」の釣り。ジグはひらひらとまるで弱った小魚のように平を打つ。狙った大物はこれを小魚だと思ってバクッと食いつくのだ。そこには図太い釣り針がついていて、ガツンと重い衝撃を私の手元に伝える。ここでまたワクワク。

しかし、これは結構シビアなスポーツである。たくさん

釣れるかどうかは、人よりたくさん底をとり人よりたくさんしゃくれるかにどうかにか懸かっている（と思っているのだが）。この辺はブラックバスとかのルアー釣りにも似ている。しかし、ここで扱うのは数十～数百gのメタルジグである。先日八丈島に遠征したときのこと。水深百数十メートルの海底から150gのメタルジグをシャクリ続けた時には、もう全身の筋肉がパンパンになった。大物狙いには結構体力も使うし、根性も必要だ。当然、翌日は筋肉痛だった。あっ、いや翌々日だった。ちょっとその人、「体力使う割に体ゆるんでるんじゃない」とか言ってません？違いますよー。ここんどこ遠征に行っていないだけなんですよーだ。この12月にもう一度八丈島に釣行予定。多分ものすごく寒いだろうが、八丈島には魚がいっぱいいるのだ。そして我々の憧れの人、その昔超人ジギンガーといわれた（？）パパ大津留という人が私たちを待っていてくれる。この人、昔ミュージシャンだったのに、魚がいっぱいいるっていうんで八丈島に住み着いちゃったのだ。この人の島で大きなカンパチを釣ってやろうと思う。ジギングの楽しさこれだけでは伝わらないと思うが、どうです一緒にやってみませんか？その釣行が例え坊主に終わっても、仲間と行く釣りは楽しい。

私は今、次なる遠征に備えて、勘が鈍らないようにと、八景の米元丸のルアー船によく出沒している。師匠UB氏とともに、大物とは言えないが、シーバスやタチウオを狙っている。この釣りはコマセで手が臭くなることもないし、意外にも普段着でも出来ちゃうのだ（もちろんこの時期防寒は必要）。最近では女の子の釣り客もよく見かける。俺たちもマドンナが欲しいよう。そうそう、師匠UB氏は釣り道具をサカナに飲んだくれる、これまたドツポにはまった釣り師である。こここのところ師匠との釣行は大抵坊主に終わってしまうのがタマニキズだ。UB氏との爆笑釣行記、釣り人ジギンガーになった暁には、是非ご披露したいと思う。下手くそな文章に付き合っていていただいてありがとうございます。

救急センターの近況と来年度の予算申請

救急センター担当・松井

暑い夏もやっと終わり気候の良い秋がやって来ました。早いもので先任の担当理事（横山先生）から早1年数ヶ月が経過し、見よう見まねで過ごしてきました。横山先生は大変にご苦労された事が身にしみて分かりました。1年数ヶ月を振り返って見ますと色々経験させて頂きました。まず、皆さんの勤務表、市福祉総務課と技師会との橋渡しなど、又、センターに御協力下さる先生方が大変多くなり、発足当初は11名【（現在かなり高齢）自分も含め】現在は（21名）又、平均年齢もかなり下がり若い先生

方が御協力下さるようになりました。これは横須賀三浦放射線技師会が救急センター、そして地域市民の為に大変に力を注がれている所以ではないでしょうか。

そして、遂に技師会に2台目のパソコンが導入され、今まで事務的な仕事が多かったセンターの仕事が、パソコンが入ったお陰で本来の仕事に専念する事が出来るようになった様に思われます。また、担当理事として現在センターに御協力されている先生方に深く感謝すると共に、技師会事務局に厚くお礼と感謝をいたします。

第2回救急センター会議報告

平成11年8月20日（金）

横須賀共済病院第1会議室

出席者 新倉会長 中井・千葉両副会長 大藤 松村 高崎 濱田 玉村 平林 引金 平川 松井(12名)
欠席者 小笠原 横山 伊藤 金谷 大石 佐藤(センター勤務) 沼田 二田 三堀 男鹿 千葉 宮原

議題 (1) 平成12年度予算申請の件
(2) その他

今年も予算申請の時期がやってきました。昨年は昇降台の予算が通過し、（この記事が載る頃には設置されていると思います）我々センターに従事している者が長い間待ち望んでいました。又、今年も理事会或はセンター会議の承諾を頂いて、機種を更新を申請致します。機種については以下に列記いたします。

* (1) 高圧リーダー撮影台（フォトタイマーを含む）（見積書とおり）

（申請内容）

胸部・腹部の立位での撮影に使用するもので、老朽化が目立ち、カセットがうまく収まりません。また、頸部及び小児の撮影に使用する時の、フィルムフォルダーの構造がフィルムの入れ替えに不便であり、撮影に要する時間が掛かりすぎます。さらに、フォトタイマーという自動露出装置が1チャンネルのため胸部、腹部での露出にばらつきがあり再撮影する事がしばしばあるため是非更新を希望致します。

(2) 小児専用撮影台（ファンティックサー）（見積書とおり）

（申請内容）

小児撮影の際に、ネットで固定立位正面・側面を撮影する補助具で、術者及び介助者の被曝はもちろん、再撮影の防止になります。立位不能な小児に特に有効で、安全上の観点からも購入を希望します。

(3) CR装置の導入について（見積書とおり）

本年の医療機器展示会において富士フィルム1社であった

CR装置が各社出揃いました。それに伴い比較廉価で設置が可能になりました。CR装置が導入のメリットとして、患者さんへの再撮影がほとんどない事が上げられます。また、ドライシステムとのセットで、現像液。定着液の費用が無くなりますし、その廃液及び廃液処理代もなくなります。また、デジタル加算料が1件当たり75点有りますので減価償却期間もかなり短縮されるものと思われます。将来、診察室モニターを設置する事でフィルムレスも可能になります。今までこのCR装置は高価なため、デーライトシステムの導入をお願いして参りましたが、ここで改めてCR装置の導入へ前向きにご検討頂きますようお願い申し上げます。なお、撮影装置等には一切変更の処置は必要ありません。見積書を添えてご提案いたします。どうぞよろしくお願いたします。以上

学術報告

第84回 研究会報告

学術・濱田

アンゴルモアの大王は降り立たなかった1999年7の月、つまり平成11年7月17日(土)15:00より、横須賀共済病院5階大講堂にて研究会を開催致しました。今回も演題の決定などで庶務の方々や演者の先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしました。

今回は、新しく装置を更新する(平成11年10月現在機種稼働中)横須賀共済病院の機種選定に、会員諸氏の興味も湧くところでありましたが、「CR」をテーマに設定しました。

参加者も総勢47名を数え、盛況でありました。

プログラムは以下の通りです。

1. 「CR5000シリーズについて」
フジメディカルシステム(株)
岩崎信之先生
2. 「コニカCR-Regiusについて」
コニカメディカル(株)
城田 透先生
3. 「コダックCRシステムの実用性」
コダックCRシステム
萩原康宣先生
4. 「横須賀市における宅配健診について」
横須賀市保健所
大寺 聡先生

プログラムではCR装置のメーカー3社個別の発表がりましたが、フラット型ディテクタやDICOM利用の拡張性など、各社の開発コンセプトの違いなどを改めて知ることが出来ました。また、横須賀市保健所ではじめて宅配

健診の演題も、実際の装置の設置風景などのスライドを見せていただいて、担当者のご苦勞ものばれましたし、とても興味深い研究会になったと思います。

さて、その後は例年どおり3部合同の納涼会へ突入し、大いに盛り上がりました。とさ。

地区委員会報告

地区委員 新倉雅人

開催日時：平成11年9月9日(木)18:30～

開催場所：神奈川県放射線技師会 504会議室

- 議 題
- 1 理事会報告
 - 2 第13回神奈川放射線学術大会について
 - 3 胸部X線写真画像評価研修会について
 - 4 その他

理事会報告

平成11年9月18日に開催される放射線安全管理研修会に会員、賛助会員合わせて47名の参加申し込みがありました。

神奈川県医療専門職連合会主催の第4回慈善公開講演会が平成11年10月16日(土)午後1時より横浜市健康福祉総合センターにて開催されます。会費は無料です、講演内容その他詳細は神奈川放射線技師会誌にてご確認ください。

平成11年10月23日(土)14:30から神奈川県立ガンセンターにおいて第3回神奈川放射線安全管理研究会が開催されます。

参加費は500円で懇親会も予定されていますので多くの方の参加をお願いいたします。内容に関しては患者被ばく・造影剤の副作用・装置の管理等の話が中心になる予定です。

その他詳細は神奈川放射線技師会誌にてご確認ください。

平成11年11月6日～7日国際親善病院(予定)において放射線管理士認定試験の法令課程認定講習会を実施する予定です。

この講習会は日本放射線技師会が実施する放射線管理士認定試験中の法令課程を県が代行するものでありますので、放射線管理士認定試験を受験する方は、この機会に受講して下さい。

受講料は5000円(テキスト代含む)で70～80名程度の人数を募集します。

第13回神奈川放射線学術大会について

平成11年11月14日(日)9:30～16:00 横浜市健康福祉総合センターにおいて

第13回神奈川放射線学術大会が開催されます。

今回は技術とサービスの調和-安心をになう診療放射線技師-をテーマに一般演題15題, 教育講演、1題、特別講演1題となっています。参加費は1000円(会員のみ)で一般の方の参加は無料になっていますので多数の方の参加をお願いいたします。

胸部X線写真画像評価研修会について

毎年恒例となっている胸部X線写真画像評価研修会は、今回相模原地区での開催になり16名の参加希望者があったと報告がありました。技師会では年度内にもう一度胸部X線画像評価研修会を県立ガンセンターにおいて開催する予定との報告がありました。

その他

平成11年8月現在60名程の新入会員の登録があったと報告されました。

生涯教育ポイント制度の年間ポイント申請に対し64名の認定者があったと報告された。

神奈川県技師会の今後の行事予定が報告された。

平成11年11/12 神奈川県病院協会学会
平成12年1/14 賀詞交換会
平成12年1/9 県技術講習会
平成12年2月 A、A会議 シドニーで開催

財務より地区助成金の申請用紙を各地区に発送しますので、申請を行って下さい。

厚生委員会より以前実施した施設調査及び給与調査のアンケートの回収率が悪いので、お手持ちの方は至急返送をお願いしますとの報告がありました。

新人紹介

秋も深まり、日増しに冬の足音が近づいてきました。遅ればせながら、我が衣笠病院放射線科に、期待のルーキーが入職しましたので紹介します。

★大島 俊直
(おおしま としなお)

★S53.3.28生
牡羊座 AB型

★神奈川県相模原市
★帝京大学付属放射線学校 卒業



★性格・・・

長所 未だ見あたらず
短所 多少頑固で忘れっぽい、
人見知り有り

★趣味 釣り、パソコン、パチンコ

★好きなタイプ にぎやかで、気さくな人

こんな彼です。今したい事、将来の夢は特に無いそうです。最近パチンコで、な・なんと自転車(4万5千円相当)をゲットしました。また、パソコンではホームページを開設しています、アクセスしてみてください。

ホームページ：本人の希望により削除されました。

(見たい方は下記アドレスにメール下さい)

◎E-Mail : ooshima@mercury.interq.or.jp

紹介者 衣笠の反町

第85回 研究会報告

学術・濱田

1999年11月27日(土)15:00より、横須賀共済病院5階大講堂にて研究会を開催致しました。今回も会場準備などで庶務の方や演者の先生方には大変ご迷惑をお掛けいたしました。

今回は、久しぶりにバリウム造影剤の賛助会員の演題を集め、また会員発表も3題設定することが出来ました。

参加者は、横須賀共済病院やいくつかの施設が休診日だったせいでしょうか、総勢33名と少なかったのが少々残念でした。

プログラムは以下の通りです。

1. 「高濃度バリウムの特性(製剤特性と臨床応用)」
堀医薬品工業企画開発部企画課
竹山 秀樹先生
2. 「硫酸バリウムX線造影剤について」
カイゲン(株)
松本 俊彦先生
3. 「ダブルグリッド撮影法の検討」
横須賀共済病院
菅原 保富先生
4. 「事故対策マニュアルの検討」
横須賀市立市民病院
柳沢 正和先生
5. 「リアルプレップ法の検討」
横須賀北部共済病院
濱田 順爾先生

バリウムの演題では、最近話題になっている大粒子の製剤についての話しが主なものでした。出席者参加での実験なども取り入れ、そういえば技師学校時代に講義で聞いたかな～っというような、バリウム製剤の添加剤などの話しなどもあり、大変興味深かったと思います。

会員発表について少々。

横須賀共済病院のホープ、菅原先生による「ダブルグリッド撮影法の検討」では、この秋の技術学会で発表された演題を急遽、もういちどお願いしたものでした。菅原先生の明るいキャラクターが特に印象的でしたが、身近なものを有効利用した探究精神に思わず感心させられました。次に柳沢先生の「事故対策マニュアルの検討」では、まず柳沢先生の流暢な語り口に皆思わずうなりました。日頃の私たちの業務のなかでいろいろな気づきを与えてくれました。そして、不遜、私の「リアルプレップ法の検討」は、先刻のらせんCT研究会の演題をもう一度やらせていただきましたが、どうもアガリ性なもので、しゃべるよりもビデオを使い、思わず引き伸ばしを図ってしまいました。お許しを。

そして、いつものごとく流れは一升屋へ。今回は会長のお姿が見えなかったのが残念でしたが、それならばと千葉副会長に超頑張ってくださいました。

なお、平成12年年2月19日(土)に、横浜南部地区と合同の勉強会を予定しています。今回は我々横須賀三浦の当番です。そして我々が女性会員によるマンモグラフィの演題も今回が「まとめ」だそうですので、皆さん期待しててくださいね。

第3回 理事会報告

日 時、10月15日(金) 18:30～
場 所、横須賀共済病院会議室
司 会、千葉副会長
出席者、14名

会議に先立ち、会長より去る8月に逝去なされた、故栗田相談役に対して報告があり、理事全員にて黙祷を行いました。

1) 庶務経過報告 二田理事より報告

7月24日(土) 須原治雄氏奥様訃報の連絡を連絡網に

て連絡

(生花を供えた)

20日(火) 8月20日開催第2回救急業務連絡会
23名分案内送付

8月16日(月) 栗田達夫氏訃報の連絡を連絡網にて連絡

(生花を供えた)

20日(金) 第2回救急業務連絡会横須賀共済病院
会議室にて18:30より開催。

(資料平成12年度救急センター予算申請書提出)

9月10日(金) 10月15日開催第3回理事会案内送付

17日(金) 技師会報を、会員、賛助会員に送付

10月15日(金) 本日第3回理事会開催

27日(水)～29日(金) 日本歯科学放射線学会が横須賀芸術小ホールと横須賀市産業交流プラザにて開催

2) 会計報告 坂詰理事より報告

3) 学 術 濱田理事より報告
11月27日(土) 勉強会を横須賀共済病院講堂にて開催予定

4) 福利厚生 齋藤理事より報告
11月22日(月) ボーリング大会を開催

5) 広 報 柳沢理事より報告
12月に会報発行予定

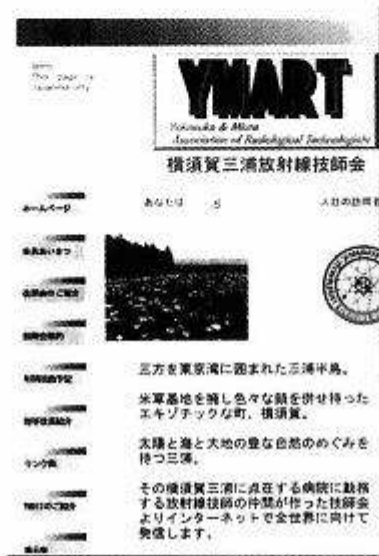
6) YMB1T 服部理事より報告
ホームページについて、開設に向け遂進している。

7) 地区委員 新倉委員より報告
別途報告のとおり。

8) 救急センター報告 松井理事より報告
別途報告のとおり。

9) その他 慶弔費の使用について
会としては、花輪あるいは生花を贈ることとしたいとの話があり、理事会で承認した。

横須賀三浦放射線技師会 ホームページ開設！



お待たせしました！
 構想3年！？製作1年！？
 やっと完成いたしました。
 地区技師会としては、たぶん全国で初
 めてだと思います。

「横須賀三浦技師会ホームページ」

ホームページアドレス

<http://www.ne.jp/asahi/ymart/ymbit/index.html>

メールアドレス

ymbit@internet.email.ne.jp

会長あいさつ、理事紹介、掲示板、他技師会とのリンクと、盛りだくさんの内容になっています。
 皆さんのコミュニケーションの場として、お役立てください。

また、ご意見、ご要望もお待ちしています



編集後記

昨年、三浦国際マラソンに職場の同僚5人で参加した。以前はハーフマラソンに3回程参加したが、どうにか完走した経験がある。同僚が言うには、年が2た回り以上も違う人に負けるわけがない！！負けたら寿司をおごる約束となり、当日皆練習もせずに10Kmの部に挑戦となった。

2Km程走った所で1人倒れていた。後で聞くところによるとその人は亡くなられたそうで健康に悪い事はすべきでないとしみじみ思った。

折り返し地点までは、なんとか走ったものの上り坂で足がピタット止まってしまった。それからは、登りは歩き下りだけ走る状態が続いた。真後ろに救護車両がピタット付けている。同僚の姿は見えない『俺が最後かなと不安がよぎる』やっとの思いでゴール！！ゴール地点でエネルギーを配っていた。一気にゴク、また並びゴク3回並んでしまった。

タイムは1時間を一寸過ぎたタイムオーバー記録証は貰えないのかな？まだ数人がゴールに向かって走ってくる。皆丸々太った体形をしている人ばかり、見慣れた顔がゴールしてくる。あれ々職場の若い（顔は老けた）同僚達、救護車両の後ろにもう一台車両がありその間にいたらしい？

寿司はいただく事はできたが、健康に悪いことは慎んだ方が良いネ

広報担当 横須賀共済病院 大竹
横浜南共済病院 高崎
横須賀市民病院 柳沢

※※※※※※※※※※※※

お：知：ら：せ

合同勉強会

平成12年2月19日（土）

場所 横浜南共済HP

午後3時～

※※※※※※※※※※※※

横須賀三浦放射線技師会報

vol24No1通算74号

1999年12月末 発行

編集／発行・広報部

印刷／製本 富士メディカル（株）

千代田メディカル（株）